

はじめに

くにさき六郷満山寺院の一つ良薬山智恩寺の三年間に及ぶ発掘調査が完了した。智恩寺は高田の町にもっとも近い大字鼎の標高六〇メートル足らずの小高い丘陵の先端部にあって、山岳六郷満山寺院の中では、いわば平野に近接して建立された寺院である。現在無住の寺となっているが、近世の講堂、六所権現などがあり、中でも近世峰入りの墨書銘のある講堂は広く知られている。しかし、その往時の姿については、伝説の域を出ないことが余りにも多い点は、他の六郷山寺院と同然である。

このたび、「うさ・くにさきの歴史と文化」を研究主題とする本館は、智恩寺を選び、はじめて六郷満山寺院の考古学的調査を実施した。しかし、寺院とはいえ、奈良・京都の大伽藍の寺々とは違って、一抹の不安もあったが、三年間の調査によって可成のことが解明できたことは、これからの六郷満山寺院の調査に一つのレールを敷きえたものと自負しているところである。

詳細は本文をご覧いただきたいが、九世紀には瓦葺きの建物があったこと、十三世紀には広い範囲で諸施設が築造されたこと、戦国時代には院主は大友氏の被官となって防御施設を整えるが、大友氏と命運を共にしていることなどが明らかになった。その上、何より寺院跡・院主坊跡・坊跡・城跡などには、中世の景観を留めていることが判明した。これらの保護保存は地域の課題であり、この冊子が少しでもお役に立てば幸いである。

終わりに、この三年間、大変お世話になった智恩寺地域の方々、豊後高田市教育委員会の関係者、発掘調査指導委員の皆さんに、厚くお礼申し上げますと共に、これからも変わらぬご指導ご協力を切にお願いするものである。

平成四年三月